北海道医師会館９階理事会室

第８回常任理事会

日　時　令和２年７月14日（火）18：00～18：36
場　所　北海道医師会館９階・理事会室
出席者　長瀬会長、深澤・藤原・佐古各副会長、北野・三戸・目黒・藤井・橋本・水谷・山科・岡部・伊藤・生駒・笹本・櫻井・青木・荒木各常任理事、藤瀬・篠島・外園各監事
（事務局：安達事務局長ほか12名）

協議事項

第１号　訪問看護師確保支援検討会委員の推薦に関する件（目黒常任理事）

藤原副会長を推薦することと決定。

第２号　日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件（櫻井常任理事）

申請のあった日医生涯教育講座１件を承認することと決定。

報告事項

１．第２回緊急事態対応における北海道医師会・病院団体等との連携協議会［６月17日（水）］について（笹本常任理事）

北海道より、新型コロナウイルス感染症の今後の感染拡大に備え、地域の医療関係者とこれまでの対応状況を振り返るとともに、医療機関の役割分担のあり方について協議や認識共有を行っていくことの説明があった。

２．令和２年度都道府県医師会災害医療・感染症危機管理担当理事連絡協議会［６月17日（水）・TV会議］について（目黒常任理事）

新型コロナ時代における災害時避難所対策と題し、「新型コロナウイルス感染症時代の避難所マニュアル」の目的や理念、避難所に求められる環境整備などの感染制御策、クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号での対応経験からの教訓などについて、説明があった。

３．日本医師会第147回定例代議員会・日医理事会［６月27日（土）・日医会館］について
（深澤副会長・長瀬会長）

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の関係で２日目に予定されていた第148回臨時代議員会は中止となり、第147回定例代議員会の１日開催となった。仮議長により開会が宣言され、議長には、２名の候補者の投票の結果、池田秀夫（佐賀県）氏が、副議長には無投票で太田照男（栃木県）氏が選定された。引き続き、事業報告と、決算の承認の後、次期役員等の選挙が行われた。会長については２名の候補者の投票の結果、当会顧問の中川俊男氏が当選した。副会長については５名の候補者のうち２名が辞退し、定数どおり承認された。常任理事については14名の候補者のうち４名が辞退し、定数どおり承認された。理事については15名の候補者のうち１名が辞退し、定数内であるため14名が承認された。監事３名と裁定委員11名については定数どおり承認された。なお、北海道からは、中川会長のほか、理事に長瀬清氏（当会会長）・藤井美穂氏（当会常任理事）、裁定委員に稲川昭氏（前当会代議員会副議長）がそれぞれ当選した。北海道からの代表質問として佐古和廣代議員より『遅れているわが国の医療分野のIT化に対する日本医師会の考えについて』の質問を提出したが、日医雑誌による書面回答となった。また、代議員会終了後に行われた第４回理事会では、役員順位、理事会および監事会等開催日程、日本医師会参与委嘱等が決定した。

４．外部各委員会報告

⑴　北海道総合在宅ケア事業団通常総会［６月29日（月）］について（北野常任理事）

令和元年度の各種事業（訪問看護事業、居宅介護支援事業、リハビリテーション支援事業、地域包括支援センター受託事業）は順調に推移していること、令和２年度の事業計画・収支予算は前年度とほぼ同内容・同額であることを報告し了承された。続いて、令和元年度の決算（黒字）、役員の選任について審議され、提案どおり承認された。役員のうち、当会関係者としては長瀬会長、深澤・藤原両副会長が理事に選任され、総会終了直後に開催された第２回理事会において当会・長瀬会長が理事長に選定された。

５．各部報告

⑴　学術部担当理事会［７月10日（金）］について（櫻井常任理事）

第100回北海道医学大会（会頭・長瀬清会長）は、第100回の節目にあたる記念大会となるが、10月３日（土）の記念大会総会は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、例年開催の学術集会規模を取りやめ、特別講演、基調講演のみを収録開催することとした。また、各分科会は学会地方会にあたる各々の分科会の判断に委ねること、大会総会日に挙行していた令和２年度北海道医師会賞・北海道知事賞贈呈式は、三密にならないよう人数を絞り、日程を調整し開催することと決定した。

第９回常任理事会

日　時　令和２年７月28日（火）18：00～19：14
場　所　北海道医師会館９階・理事会室
出席者　長瀬会長、深澤・藤原・佐古各副会長、北野・三戸・目黒・藤井・橋本・水谷・山科・岡部・伊藤・生駒・笹本・櫻井・青木・荒木各常任理事、藤瀬・篠島・外園各監事
（事務局：安達事務局長ほか12名）

協議事項

第１号　母体保護法指定医師の指定に関する件（目黒常任理事）

７月15日の審査委員会で指定可とされた、新規申請者１名と再審申請者１名を指定医師とすることと決定。

第２号　母体保護法指定医師の更新および研修会開催の延期に関する件（目黒常任理事）

当会では、母体保護法による指定医師更新を２年毎に行っており、現在の指定は今年の10月31日をもって指定有効期間が満了となるが、新型コロナウイルス感染症の影響により指定要件となる研修会が開催できていない。また、本件に関しては全国的な問題でもあり、日本医師会を通じて厚生労働省に対し、対応方針を決定していただくよう要望するとともに、当会としては指定医師更新時期を１年延期することを承認決定。

第３号　北海道新型コロナウイルス感染症対策有識者会議構成員の就任に関する件（目黒常任理事）

三戸常任理事を推薦することと決定。

第４号　日本医師会会内委員会委員の推薦に関する件（目黒常任理事）

日本医師会より北海道ブロックに対し、新規も含め22の委員会委員の推薦依頼があり、当会副会長、常任理事のほか、当会会員４名の併せて22名（内２名は複数所属）を推薦することと決定。

第５号　日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件（櫻井常任理事）

申請のあった日医生涯教育講座１件を承認することと決定。

第６号　主要行事の開催変更に関する件（目黒常任理事）

当会の主行事の中で、今後開催を計画していた７月の地区別事務懇談会、11月の郡市医師会長協議会・創立73周年記念行事は中止する。また８月、10月、来年２月に開催予定の理事会と３月の臨時代議員会はWeb会議併用にて開催することと決定。

第７号　その他

⑴　８月行事予定表に関する件（事務局）

報告事項

１．日医理事会報告（長瀬会長・藤井常任理事）

経済産業省次世代ヘルスケア産業協議会健康投資ワーキンググループの件の報告と、「ヒトパピローマウイルスから国民の命を守る会（仮称）」設立に向けた発起人のお願いの件、令和２年度第１回都道府県医師会長会議開催の件等につき協議した。また事前の理事打合会において、日本医師連盟委員長選出について、新型コロナ検死、検案での危険手当並びに感染時の補償について、インフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチン接種の推進について、医師皆が医師会員になることを願ってについて、第９回「日本医師会赤ひげ大賞」候補者推薦依頼についての意見交換を行った。理事会の詳細については日医ニュース等を参照されたい。

２．北海道小児救急医療地域研修事業協議会［７月16日（木）］について（青木常任理事）

北海道小児科医会、北海道、当会の三者で今年度の研修会開催計画について協議を行い、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全道８会場から４会場に変更するとともに、ハイブリッド開催（集合研修＋ウェビナー）も含めて開催方法を検討することとなった。

３．外部各委員会報告

⑴　北海道子どもの未来づくり審議会［７月15日（水）］について（藤井常任理事）

第三期「北の大地☆子ども未来づくり北海道計画」の推進状況について報告があった後、北海道子どもの未来づくり審議会子ども部会とほっかいどう未来輝く子育て大賞の概要等の説明があった。

⑵　新型コロナウイルス感染症対策専門会議［７月21日（火）］について（三戸常任理事）

今年４月に北海道感染症危機管理対策協議会の中の専門会議として設置され、書面による会議開催が行われてきたため、今回が初めて参集による開催となった。最初に、小職が委員長として選出され、事務局より北海道における新型コロナウイルス感染症対策について、これまでの道の対応経過と患者数などの報告があった。その後、今後の対策の前提とする患者推計、病床の確保、重点医療機関と協力医療機関について協議した。新たな流行シナリオでは、道内においては51日目に入院や宿泊療養を必要とする患者が最大1,241人に達するなどの推計が示された。

道総医協関連事項（深澤副会長）

１．地域医療専門委員会第１回看護対策小委員会［７月20日（月）］について（水谷常任理事）

看護職員関係の新型コロナウイルス感染症関連事業と北海道の看護職員確保対策の概要について、事務局より報告があった。その後、北海道看護職員修学資金の現状と看護職員確保対策上の課題について説明があり、第８次北海道看護職員需給推計で課題となった看護職員の需給における地域偏在と領域別偏在を解消するため、修学資金貸付制度の改正について協議した。